

2021年度
学校だより
第8号

しもね

牛久市立下根中学校
令和3年7月19日
文責 校長 本橋和久

地区別授業参観を実施しました。～7月5日(月)-9日(金)

新型コロナウイルス感染防止のため、教室での密集を避ける地区別授業参観を実施しました。小学校時代からずっと続けている協働的な学びの様子、昨年11月に全生徒に導入されたタブレットを活用した学びの様子を中心に保護者の皆様に授業を参観していただきました。感想も分けて掲載します。



【授業についての保護者の皆様からのご意見・ご感想(1)】・・・()内は学校からの説明です。

- ・タブレット使用が慣れてきているように見受けられました。
- ・全ての授業に参加しましたが、先生の教え方により、理解しやすい、しにくいと顕著に表れていると感じました。(引き続き教職員全員が毎週木曜日の研修、毎月の定例授業研修を通して授業力を高めるよう努めていきます。)
- ・生徒達の学習態度に疑問を感じる場面が有りました。もう少し緊張感を持って授業を受けてもらえたらなと感じました。
(人は安心してリラックスしている時に最も脳が活性化すると言われていています。しかし、課題から離れてしまっているとしたら授業者が直ちに手立てを講じる必要があります。)
- ・タブレットを使って授業をしている姿を見て、新鮮さがあり、今の子供達の勉強の仕方の1つなのだと認識しました。教室も、換気など丁度良い教室の環境だと思いました。
- ・体育館の中でマスクをしながら、これからの時期は、大丈夫なのかと心配になりました。
(体育の時間は換気や物理的距離を条件にマスクをはずしてもよいことになっています。熱中症は命の危険に直結するからです。屋外では帽子の着用も奨励しています。)
- ・グループ体制では私語をしているグループもあり、気になりました。
(課題に関する対話でなくなる原因はいくつかあります。課題が簡単過ぎる、探究に必要な資料が不十分、グループの時間が長過ぎるなどです。多くの場合は授業者の手立てで改善できます。)
- ・今回はICTを活用した授業は観られませんでした。先生の話の静かに聞き生徒達の雰囲気も良かった印象を受けました。
(聴き合うことが学びの第一歩であることを4月から繰り返し指導しています。)
- ・タブレットは使用していなかった。理科の映像は良かった。社会の資料は配布でもよいのでは？
(ICTのよさがある一方で紙媒体のよさもあります。教科や授業デザインに応じて使い分けたり併用したりしていきます。)
- ・子供達が慣れた様子でグループワークをしていたので、普段から学び合いをしているのが伝わっ

てきました。(リラックスしている時、自分を守ることに必死になる必要がない時、学びは広がり、深まると言われています。どの生徒とグループになっても共に課題を探究できる人間関係づくりをこれからも大切にしていきます。)

- ・まだまだ子供たちがうまく操作出来ない場面もみられましたが先生がよくみてフォローしていたなと感じた。
- ・国語の教科書読み合わせのようなことをしていたので、タブレットやモニターは使ってなかったようでわかりませんが、隣の席の子とやるのは良いことだなと思いながら観ていました。
(ICTは必要なときに使用し、仲間と学ぶほうがよい場合はこれまで通りペア等で学びます。)
- ・最終日の9日の4校時「英語」のクラスを見学。教科の先生とネイティブの先生の2人で、モニター、生徒のタブレット端末を使用し、座席の適時組み合わせ変更等、工夫をしながら授業を進めていた。生徒同士の会話がさらに盛況になればと期待した。
(外国語の練習ではシステム化された順序で相手を次々に代えていくほうが、相手探しに悩むことなく英語練習に集中でき、また量的にもたくさん練習できると考えて実施しています。)
- ・皆がタブレットを使っている状況を初めて見て、スムーズに使っていることに驚きました。タブレットの活用が全体を通してどのようにされているのか、タブレット学習の感想などを、子供に聞いてみたいと思いました。(Google Formsを活用して生徒たちの感想を聞いてみます。)
- ・起動からアプリを開くまでの時間に個人差が大きかったように見えた。登校時起動してスリープモードにしておき、シャットダウンは一日の最後だけにするとかの工夫が必要か。(確認します。)
- ・授業に対する姿勢がさすが3年生だと思いました。グループ学習はみんなが話し合っているかといった話に入れてない子もいるだろうし、今はコロナの世の中なので、どうなのかなと？
(グループになって話をしていない生徒は、①自分ひとりで考えている最中 ②仲間の対話を傍聴(モニター)している、のどちらかであれば「学んでいる」と見なします。特に②では自分の考えと友達の考えを比べて思考を深めている可能性がありますので、無理に話に加わるよう促すことはしません。①でも②でもないときは、授業者が声をかけて課題にもどるように、あるいは友達やテキストとつながるように働きかけるようにしています。)
- ・静かに真剣に授業を受ける姿勢は素晴らしかったが、発表する時の生徒の声が小さくて聞こえないことが多い。また、先生も小さめの方が多く感じられるので、意識して授業を行ってほしい。
(マスクをつけるようになって聴き合いが困難になりました。授業者は生徒の発言が全員に伝わったかどうかを確かめながら進めなければなりません。「〇〇さんが言ったこと、伝わりましたか?」「〇〇さんが言ったこともう一度言ってくれる?」など丁寧に確認するようにします。)
- ・参観した授業は社会科で、担当の先生はあまりICTの活用をされないようでした。それでも授業をとおして先生なりの授業の工夫が随所に見られました。協働的な学びにより、クラスの誰もが授業に集中できている印象でした。
(学校ではタブレットを資料集や辞書などの学習資料、ペンやノートなどの文房具、電卓やカメラなど同様のツールとして捉え、必要なら使うという考え方で導入しています。)
- ・タブレットに気を取られて授業に集中できてない生徒がいたが、先生は気にせず進めていた。また、英会話の質問に対する回答を、タブレットで調べて、出てきた英文をただ読むだけの授業で、生徒の学びになっているのか疑問だった。
(学ぶとは未知のことを知ったり昨日までできなかったことができるようになったりすることです。その意味では、始めは真似から入る学びもあり得ます。次からは自分の言葉として発言できることを目指す過程のひとつだと考えれば、学びのひとつの段階であると思います。)
- ・英語でプレゼンをしている授業を見ましたが、社会に出て役に立つと思うので良いと思います。
(総合的な学習で今年度内にイタリアの人たちと英語で交流することを視野に入れていきます。)
- ・どんどん便利な物を取り入れて行くのに賛成です。
- ・地区によって参観できる科目が決まってしまう、見たい授業が見られず残念でした。また発表会でなく、普段通りの授業を見たかったです。ICTの活用を間近で見られたのでよかったです。欠席時も自宅から通常授業に参加できるようになるといいですね。土曜授業やサマースクールなども自宅と学校を繋いで参加できるといいですね。
(参観の方法については、今回の成果や課題を考慮して改めて検討します。)
- ・美術は和気あいあいとしながら作成する子、黙々と作成する子それぞれで良いと思います。
(仲間がいるから安心して自分の制作に集中できるというのも協働の効果のひとつです。)

◇次号に続きます。